

# 令和3年度新規特定漁港漁場整備事業計画について

北海道開発局 農業水産部 水産課

## 1. はじめに

令和3年7月、北海道開発局で整備を行っている第3種・第4種漁港の5地区(遠別、美国、白尻、庶野、

厚岸)において、新たな特定漁港漁場整備事業計画が策定されたので概要について報告する。

## 2. 遠別地区

### 1) 地区の特徴

遠別地区は日本海有数の好漁場である武蔵堆を近傍に控える北海道日本海北部に位置し、ホタテガイ養殖を中心とした養殖漁業等の水産物の生産拠点であるとともに、日本海北部海域で操業する漁船の避難港として重要な役割を担う第4種漁港である。本漁港では、既定計画での屋根付き岸壁の整備および衛生管理対策の推進により、道内各地へのホタテガイ種苗基地として重要な役割を担っている。

### 2) 事業の目的

#### ①国内外への安定的な水産物供給体制の確保

ホタテガイ成貝の出荷において、既設の屋根下での選別作業後、野天で水槽車への積み込みを行っているため、日射による鮮度低下や異物混入が課題となっている。このため、積込部の岸壁屋根の改良を行い、安定的な水産物供給体制を確保する。

また、南防波堤は整備から40年以上が経過しており、矢板の腐食が進行するとともに、施設前面の堆積土砂から作用する土圧に対して、鋼矢板の安定性の低下がみられる。加えて、南防波堤背後に位置する-3.5m岸壁は、南防波堤の方向からの強風に

より係留作業に支障を来している。このため、南防波堤を改良するとともに防風柵を設置し、航路の確保、係留作業の安全性を確保し、安定的な水産物供給体制を確保する。

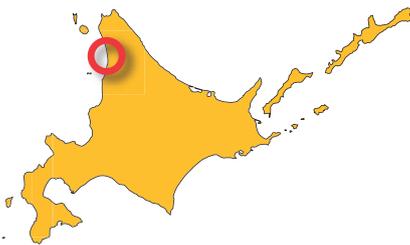
#### ②漁業活動の安全性・効率性の向上対策

遠別川から供給される漂砂により港口部の堆砂が進行し、航路水深が確保されておらず、ホタテガイを減載して帰港する状況である。加えて、ホタテガイ生産量の大幅な増加に伴う漁具増加により作業用地が不足しており、漁港から離れた場所で漁具の洗浄作業を行う非効率な作業状況となっている。これらのことから、漂砂対策として航路へのサンドポケット整備や、洗浄作業用地を整備し、漁業活動の安全性・効率性を確保する。

### 3) 主要工事計画

- ・南防波堤(改良)170.0m、-3.0m岸壁(改良)196.0m、-3.5m岸壁(改良)80.0m、用地15,300m<sup>2</sup> ほか
- ・計画事業費：2,620百万円
- ・事業期間：令和3年度～令和12年度

遠別漁港  
(遠別町)



遠別地区位置図



遠別地区整備概要

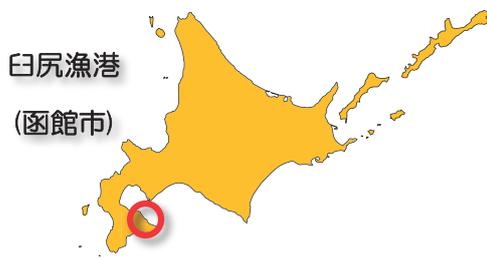


### ③漁業活動の安全性・効率性の向上

出荷用トラックが利用している国道 278 号線は狭隘なため、歩行者との接触等のおそれがあり、低速で走行するなど慎重な運転を余儀なくされている。また、コンブ漁船の係留施設が不足しているため、滞船が発生するなど非効率な作業が生じている。このため、幅員の広い国道バイパスまでの臨港道路の整備、コンブ漁船が利用する岸壁・船揚場の整備を行い、漁業活動の安全性・効率性を確保する。

### 3)主要工事計画

- ・北防波堤(改良)149.0m、-4.0m 岸壁(改良)175.0m、臨港道路 1069.0m ほか



白尻地区位置図

- ・計画事業費：5,785 百万円
- ・事業期間：令和 3 年度～令和 12 年度



白尻地区整備概要

## 5. 庶野地区

### 1)地区の特徴

庶野地区は北海道えりも岬東部海域を主漁場とするサケ定置、磯根漁業等の流通拠点であるとともに、漁船航行上の難所であるえりも岬周辺で操業・航行する漁船の避難港として重要な役割を果たしている。また、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策推進地域に指定されており、今後切迫する大規模地震に備えた水産物流通機能の確保が求められている。

### 2)事業の目的

#### ①防災対策

えりも地域は、平成 23 年東日本大震災の津波来襲に伴う大規模な港内浸水により、荷さ



庶野地区位置図

ばき所等が被害を受けていることから、今後発生しうる津波災害に対し、漁業活動の早期再開を図るための対策が喫緊の課題となっている。このため、防波堤および岸壁の耐津波性能を強化するほか、道路の液状化対策を実施する。

#### ②漁業活動の安全性・効率性向上

第 1 港区においては、港口からの進入波による港区内の擾乱や岸壁への越流のほか、東護岸からの越波や強風の影響により、漁業活動の安全性および効



庶野地区整備概要

率性の低下が課題となっている。同様に第3港区においても、強風により上架中の船舶が台座から落下するといった被害が発生している。また、前浜を利用するコンブ漁船は汀線変化により非効率な上下架作業および陸揚げ作業を強いられている。このため、防風柵新設のほか、突堤新設や既設護岸の嵩上げ改良、船揚場新設等を実施し、港内作業環境を改善することにより、漁業活動の安全性および効率性の向

上を図る。

### 3) 主要工事計画

- ・東防波堤(改良)243.0m、東護岸(改良)246.0m、船揚場 55.0m ほか
- ・計画事業費：2,498 百万円
- ・事業期間：令和3年度～令和12年度

## 6. 厚岸地区

### 1) 地区の特徴

厚岸地区は北海道東部、太平洋沿岸に位置する第3種漁港であり、道内外のサンマ棒受網、サケ・マス流し網などの沖合漁業及びコンブ・カキ・アサリ等の沿岸・養殖漁業の流通拠点として重要な役割を担っている。既定計画においては、狭隘な湖北地区から湖南地区に陸揚げ機能を移転し、屋根付き岸壁や清浄海水導入施設等の高度な衛生管理機能への強化を図るとともに、外来漁船の受入れ機能の強化に資する整備等を実施している。

### 2) 事業の目的

#### ① 防災対策

##### (湖南地区)

主要な陸揚岸壁を有する湖南地区と湖北地区は、道道123号線の厚岸大橋のみで結ばれており、地震等の災害時における一時的な地域の孤立化が課題となっている。このため、航路および耐震強化岸壁等を整備し、防災・減災機能の強化を図る。

##### (湖北地区) (湖内地区)

軟弱な地盤の影響や過去からの地震が繰り返されたことなどから、地盤沈下により岸壁等天端が低い

状況にあり、利用上の課題となっている。また、低気圧来襲などの高潮時には、岸壁が頻繁に浸水し、漁業活動を始め背後市街地まで大きな浸水被害が発生している。このため、湖北地区では-4.0m岸壁等を改良するとともに、湖内地区では-1.5m物揚場を改良し、浸水被害を低減し、漁港における防災・減災対策を図る。

### ② 漁業活動の安全性・効率性の向上 (湖南地区)

第2埠頭は、埠頭北側に陸揚岸壁(衛生管理対策施設)、南側に休けい岸壁が配置されている。陸揚げ後の漁船が休けい岸壁へ移動する際、既設の航路を経由したルートでは、鋭角に漁船を回頭させる必要があるが、当該水域は流速が速く、強風で三角波が立つ操船上の難所であるため、漁船の損傷が発生している。また、融雪時の河川出水の増加に起因する厚岸湖内からの土砂の流入により、航路水深の不足から、利用漁船は船底を海底面に擦り、船体の損傷が生じている。このため、-5.5m航路を整備し、漁業活動の安全性・効率性の向上を図る。

その他、小型定置網漁業、刺網漁業、カキ・アサリ養殖漁業が冬期間に操業を行っているが、操業前



厚岸地区位置図



厚岸地区整備概要(湖南、湖北、湖内)

の除雪作業が漁業者の負担となっている。このため、船揚場に防雪施設整備を実施し、漁業活動の安全性・効率性の向上を図る。

#### (湖北地区)

イワシ旋網船の休けい岸壁が不足しており、漁期が重複するサンマ棒受網船の休けい利用と輻輳している。このため、-5.0m 岸壁及び-5.0m 泊地を-5.5m に増深することで、イワシ旋網船用の休けい岸壁を確保し、漁業活動の安全性・効率性の向上を図る。

#### (門静地区)

利用隻数の増加及び漁船の大型化に伴い、既設船揚場は狭隘なため、前浜を利用して上下架作業を行っており、非効率な作業となっている。このため、船揚場等を整備し、漁業活動の安全性・効率性の向上を図る。



厚岸地区整備概要 (湖内)

### ③国内外への安定的な水産物供給体制の確保

#### (湖内地区)

湖内の土砂が岸側に移入しているため、船外機船の出入港に必要な水深が確保されていない。このため、航路を整備し、必要水深を確保することで、安定的な水産物供給体制の確保を図る。

#### (門静地区)

漂砂により泊地が埋没し、水深不足のため漁船は低速で慎重な航行を余儀なくされ、漁業活動に支障を来している。このため、防砂堤等を整備し、安定的な水産物供給体制の確保を図る。

### 3) 主要工事計画

- ・ -5.5m 航路(湖南)113,000m<sup>2</sup>、船揚場(改良)(湖南)381.0m、-4.0m 岸壁(改良)(湖北)200.0m、-1.5m 物揚場(湖内)370.0m、船揚場(門静)60.0m ほか
- ・ 計画事業費：9,122 百万円
- ・ 事業期間：令和3年度～令和12年



厚岸地区整備概要 (門静)

## 第64回(令和2年度)北海道開発技術研究発表会 受賞論文(港湾部門)の概要について

北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課

第64回(令和2年度)北海道開発技術研究発表会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、聴講は全国土木施工管理技士会連合会の継続学習(CPDS)プログラムを希望する方に限るものとし、令和3年2月15日から5日間にわたり、Web配信で開催されました。自由課題6カテゴリー185論文の発表が行われ、うち14件が港湾・空港・漁港部門の発表が行われました。

これらの論文の中から、創造性、将来の発展性、テーマ性、研究努力及びプレゼンテーションなどの観点から

ら北海道開発局長賞及び奨励賞、寒地土木研究所長賞、北海道開発協会長賞及び奨励賞が選出されました。そのうち、港湾部門(港湾・漁港・空港事業関連)からは各賞あわせて6件が受賞されましたので、研究課題と発表者(所属は発表当時)をご紹介します。

### 【北海道開発局長賞 受賞論文】

#### 研究課題 推進(推-16)

カルシア改質土を用いた防波堤背後盛土の施工について一函館港若松地区泊地浚渫工事を例として一